

イングリッシュキャンプで学んだこと

善導寺小学校 三年

今年の八月三十一日と九月一日、わたしはやす高原のイングリッシュキャンプにさんかしました。イングリッシュキャンプでは、いくつかのグループに分かれて、そこに何人かの留学生がたんとうしていました。留学生は、エジプトやインドネシア、タイ、マレーシアなどの人でした。わたしは、どんな人なのか、言葉や話がうまく伝わるかととても不安でした。

イングリッシュキャンプでは、いろいろなゲームをしました。その間には留学生の人たちと話をする時間がありました。わたしは、インドネシアのトニさんと話をしました。はじめはすごく不安でこわかったけど、話をしてみると、とてもやさしくていい人でした。トニさんは日本語がほとんど話せませんでした。わたしの知っている英語やジェスチャーで話をすることができました。キャンプのさいしょは、とても不安な気持ちだったけど、二日目のさいごのほうでは、楽しすぎて、

まだいっしょにいたいと思うようになりました。

わたしがこのイングリッシュキャンプで学んだことは、言葉がなくても人と人はなかよくなれるということと、ちがいてとてもおもしろいということです。今回のイングリッシュキャンプには、日本語を話せない留学生がたくさんいました。わたしもほとんど英語が話せません。でもわたしたちは友だちになりました。人と人がなかよくなることに言葉のちがいなんてあまり関係がないことに気づきました。また、じこしょうかいのとき、留学生の人たちはいろいろな言葉で、いろいろなしかたであいさつをしていました。それらを見ていると、日本とのちがいがとてもおもしろいと感じました。

今、世界では、いろいろなところで戦争がっています。言葉や文化のちがいをみとめあえず、おたがいをきずつけ合っています。わたしは、それらの国の人たちが、もっと話をすべきだと思います。話し合えばきっと、言葉をこえて友だちになれると思います。ちがいをたのしむことができます。そうすればもっと世界はなかよく、楽しく

なると思います。

そのためにわたしは、これからもいろいろなことを勉強していきたいと思います。いろいろな国のことをもっと知って、もっとちがいについて知っていきたいと思います。